

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2018 年度（前期）指定公募

「地元医師会、行政を交えた顔の見える多職種連携研修会への助成」

完了報告書

「上益城郡在宅医会：定例ミーティング」

申請者：上益城郡在宅医会 山地 陽一

所属機関：医療法人五代会

提出年月日：2019 年 10 月 21 日

開催概要

上益城郡医師会と熊本県上益城郡5町（御船町、嘉島町、益城町、甲佐町、山都町）及び御船保健所と協力し、上益城地域の在宅医療に携わっている医師、歯科医師、その他医療専門職、介護専門職、行政職員などの参加による定例ミーティング（ミニ講座やケース報告、グループディスカッション）を各町で全7回開催し、それまでの顔が見える関係性から、お互い意見を述べ合える関係性に昇華させ、地域包括ケアシステムの更なる前進を図った。

第1回

開催地：益城町（さくら病院）

内容：ミニ講座

「管理栄養士からみた在宅医療」

福島 宏美 管理栄養士（谷田病院）

ケース報告&グループディスカッション

ケースⅠ：「在宅診療における実際の問題点」

高本 憲治 医師（高本脳神経外科医院）

ケースⅡ：「認知症があり、糖尿病コントロールが不良な事例」

岡野 美岐子 看護師（トラスティーホームげんき）

参加者数：87名

（医師7名、歯科医師4名、薬剤師6名、看護師23名、保健師5名、理学療法士2名、言語聴覚士1名、介護支援専門員12名、社会福祉士4名、介護福祉士2名、管理栄養士2名、精神保健福祉士2名、事務職員15名、行政職員2名）

第2回

開催地：御船町（希望ヶ丘病院）

内容：ミニ講座

「認知症治療についての最近の知見」

中村 聡秀 医師（希望ヶ丘病院）

ケース報告&グループディスカッション

ケース：「御船町の地域課題について」

野田 和裕 介護支援専門員（御船町介護保険事業所連絡会）

参加者数：93名

（医師8名、歯科医師1名、薬剤師3名、看護師27名、保健師3名、理学療法士5名、介護支援専門員24名、社会福祉士6名、介護福祉士11名、事務職員3名、行政職員2名）

第3回

開催地：甲佐町（甲佐町生涯学習センター）

内容：ケース報告

「再入院を繰り返す心不全患者のケースについて」

谷田 理一郎 医師（谷田病院）

上益城郡在宅医会の活動およびアンケート結果の報告

「上益城郡在宅医会の活動報告と地域課題について」

吉橋 謙太郎 経営企画部長（谷田病院）

グループディスカッション

「来年度に向けた課題および活動の意見集約」

参加者数：77名

（医師8名、歯科医師2名、薬剤師3名、看護師25名、保健師2名、理学療法士6名、言語聴覚士1名、介護支援専門員10名、社会福祉士4名、介護福祉士3名、管理栄養士1名、精神保健福祉士1名、事務職員9名、行政職員2名）

第4回

開催地：山都町矢部地域（矢部保健福祉センター）

内容：ミニ講座

「住民の得意を活かせ！」～ことなみ流地域包括のつくり方～

丸岡 三紗 歯科衛生士（国民健康保険造田歯科診療所）

グループディスカッション

「中山間地域の在宅支援について」

参加者数：52名

（医師7名、歯科医師7名、薬剤師3名、看護師7名、保健師4名、理学療法士4名、作業療法士1名、言語聴覚士1名、介護支援専門員2名、社会福祉士4名、介護福祉士1名、管理栄養士1名、事務職員7名、行政職員3名）

第5回

開催地：御船町（御船町役場）

内容：ミニ講座

「訪問看護師の具体的なサービス内容について」

田代 一美 看護師（訪問看護ステーションみふね）

ケース報告&グループディスカッション

ケース報告Ⅰ：「栄養障害・運動障害の在宅症例」

山地 陽一 医師（山地外科胃腸科医院）

ケース報告Ⅱ：「中山間地で看取りを行ったご夫婦」

牟田 龍史 医師（泰泉堂牟田医院）

参加者数：110名

（医師7名、歯科医師3名、薬剤師4名、看護師27名、保健師6名、理学療法士4名、介護支援専門員13名、社会福祉士5名、介護福祉士5名、管理栄養士1名、精神保健福祉士1名、事務職員6名、行政職員4名、民生員20名、区長2名、町民2名）

第6回

開催地：熊本市（熊本赤十字病院）

内容：ミニ講座

「脳梗塞に対する血管内治療」

進藤 誠悟 医師（熊本赤十字病院）

「熊本赤十字病院における大腿骨近位部骨折診療」

井本 光次郎 医師（熊本赤十字病院）

ケース報告&グループディスカッション

ケース報告Ⅰ：「本人・家族を支えるがん相談」

木村 麻衣子 看護師（熊本赤十字病院）

ケース報告Ⅱ：「熊本赤十字病院から照会があった高齢者看取り」

牟田 龍史 医師（泰泉堂牟田医院）

ケース報告Ⅲ：「上益城郡医師会の取り組みについて」

山地 陽一 医師（上益城郡医師会）

参加者数：97名

（医師21名、歯科医師1名、薬剤師4名、看護師25名、保健師4名、理学療法士1名、作業療法士1名、言語聴覚士1名、介護支援専門員16名、社会福祉士12名、介護福祉士1名、管理栄養士1名、事務職員9名）

第7回

開催地：山都町蘇陽地域（山都町役場蘇陽支所）

内容：ミニ講座

「蘇陽地域のへき地医療について」

水本 誠一 医師（山都町包括医療センターそよう病院）

ケース報告&グループディスカッション

ケース報告Ⅰ：「蘇陽地域の在宅ケースについて」

水本 誠一 医師（山都町包括医療センターそよう病院）

ケース報告Ⅱ：「上益城郡医師会の取り組みについて」

山地 陽一 医師（上益城郡医師会）

参加者数：39名

（医師6名、歯科医師1名、歯科衛生士1名、薬剤師3名、看護師10名、保健師3名、理学療法士1名、介護支援専門員7名、社会福祉士1名、事務職員5名、行政職員1名）

定例ミーティングの様子（ミニ講座やケース報告、グループディスカッション）



定例ミーティングでは、ミニ講座やケース報告などの後に、最低30分間はグループディスカッションの時間を設け、「話を聞いて終わり」ではなく、「話を聞いた後にそれぞれの立場からお互い意見を出し合ってディスカッションをする」を大切にしました。毎回グループディスカッションは熱気を帯び、司会者が終了を告げてもなかなか各グループともディスカッションが終わらないくらい盛り上がった。そのおかげか「他事業所や他職種の方と意見交換をしやすくなった」とのご意見を多くいただきました。

また、定例ミーティングには上益城郡医師会や行政職員も参加しているので、双方から「グループディスカッションで地域課題を収集したり共有したりできている」とのご意見もいただきました。

この定例ミーティングを通して、最近では「お互い意見を述べ合える関係性」が構築されてきているので、今後も定例ミーティングは継続し、次の段階では「地域課題を協働で解決できる関係性」まで更に昇華できればと思っている。

地元医師会や行政との関わり

定例ミーティングを開催するにあたっては、地元の上益城郡医師会や行政職員（福祉課）からもご意見を頂きながら企画立案を行っており、特にケース報告では上益城郡医師会会員（医師）から多くのケースを出していただいた。また、行政においては講師選定にご協力いただいたり、民生委員や区長に参加していただいた回では、双方への広報も担っていただいた。これら地元医師会や行政の支援、協力を得ながら開催していることが参加者に伝わっていることも、参加者の増員につながっていると思われる。

最後に

今回、「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団」の助成を得て会を開催したことで、助成終了後に、熊本県の在宅医療に関する補助金でのこの事業を継続していくことが決まりました。勇美記念財団におかれましては心より感謝申し上げます。

感想

定例ミーティングは回を増すごとに、参加者だけでなく地元行政からの期待が大きくなってきていることを実感します。上記のとおり継続していくことが決まりましたので、この期待を良いプレッシャーとして、地域包括ケアシステムの推進に向けて邁進していく所存です。